



「ひく」? 「おす」?

「風邪をひく」「ピアノを弾く」「豆を挽く」「線を引く」「値を引く」「鍋に油を引く」「惹かれる」。——漢字では使い分けがあるが、もともとの日本語としては一つの言葉だ。「ひく」の用法はなにげに広い。

もともと、「ひく」とは、典型的には、水平方向に、自分に近づく方向で、力を加えること(移動のこともある)。「綱引き」の「引く」は典型的だが、「線を引く」も水平方向の動きで、そこに軌跡を作る。「水道を引く」も、「線」の軌跡が敷設につながっている。ちなみに「長引く」は、時間の流れという「線」での「延長」だ。「納豆が糸を引く」は水平方向ではなく立体的に軌跡ができる。「風邪をひく」は、「悪い風を体に引き込む」病気ととらえられていた点でやはり「ひく」だ。「ピアノを弾く」も「ひく」。楽器の中でも、「ひく」楽器には基本的に弦

がある。弦を引つ張って弾いたり弓を引いたりして演奏するからだ。

「豆を挽く」は、臼のようなもので水平方向での動きを「引いて」作りだし、その下に何かを置いて砕くことだ。挽きたてのコーヒーはいいが、「車に轢かれる」のは避けたい。交通安全のため、改めて心を引き締めましょう。

「引いて内容をぬき取る」という拡張もある。「引き算」の「ひく」だ。この場合、中身が減る。「給料から」を引かれる」のは悲しいが、「三割引」みたいなうれしい「ひく」もある。おそるべし、「ひく」。

「心惹かれる」のは受動的だが、人やものに対して、「推す」という言葉もある。こちらは能動的だ。ただの「好き」ではない。「推し」は芸能人とかゲームとか小説とか、いろいろ「選ばれる」ものの中で自分が大好きで応援したくなるものについて言う。だから昼寝が

好きでも「私の推しは昼寝だ」とはふつう言わない。この「推す」も本来は「押す」と同じ言葉。皆に推薦したくて台の上におしあげるような感覚で「推薦・応援する」わけだろう。方向は正反對だが、好みに関する比喩的表現として「力」のイメージがある点は共通している。

さてさて、「ひく」には反対の使い方もある。「あの人、変なことを言うので引いてしまった」というのがそれ。今度は、避けるように体を離すわけだ。「惹かれ」たり「引い」たり、忙しい。辞書等から引用するのも「引く」、辞書で調べることも「引く」。手許の『旺文社標準国語辞典』を引くと、「血の気が引く、会社を引く」など、ほかにも「引く」は大活躍である。いやあ、言葉はおもしろい。実に心惹かれる。でもこんなことでうれしがりすぎると、ちよつと「引かれ」ちゃう?

早稲田大学教授

森山卓郎
もりやまたくろう